

# 2019年3月期 第2四半期 決算説明会

富士フイルム ホールディングス株式会社

2018年11月7日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おください。

富士フイルムホールディングス株式会社 2019年3月期 第2四半期決算について、説明させていただきます。

## 2019年3月期上期決算のポイント

**期首計画に対し、営業利益が順調に進捗  
前年同期比では、売上は横ばいも、利益は大幅増益**

<b>事業別 業績</b> (前年同期比)	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ <b>売上</b> 低採算のローエンドプリンタービジネスを縮小させたことなどにより ドキュメント事業が減収となるも、メディカルシステム事業、 バイオCDMO事業、ディスプレイ材料事業、電子材料事業が伸長</li> <li>✓ <b>営業利益</b> メディカルシステム事業、ディスプレイ材料事業、電子材料事業などが増益、 ドキュメント事業が大幅増益</li> </ul>
<b>特記 事項</b> (2Q)	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ドキュメント事業の構造改革は順調に進捗</li> <li>✓ 1,000億円の自己株式取得を開始し、222億円分(9月末)を取得</li> <li>✓ 富士フィルム富山化学を設立、新薬開発を加速</li> </ul>

2019年3月期 上期決算について、ポイントを説明します。

2019年3月期 上期の業績は

売上はドキュメント事業で低採算商談の縮小をさらに進めたことで、計画に対して微減となりましたが、営業利益は順調に進捗しました。

前年同期比では、売上は横ばい、営業利益は大幅に増益となりました。

事業別の業績について、売上は、メディカルシステム事業、バイオCDMO事業、ディスプレイ材料事業、電子材料事業が伸長しました。

体質強化のために低採算のローエンドプリンタービジネスを縮小させたことや仕入れ品の売上計上方法を変更したことなどによりドキュメント事業が減収となりましたが、これらのドキュメント事業のマイナス影響を除くと、増収となりました。

また、営業利益は、メディカルシステム事業、ディスプレイ材料事業、電子材料事業などで増益、ドキュメント事業が大幅増益となりました。

第2四半期には、

1月に発表したドキュメント事業における構造改革を順調に進めております。

また、1,000億円を上限とする自己株式の取得を開始し、9月末時点で222億円分を取得しました。

10月には新薬開発を加速するために、富士フィルム富山化学を設立しました。

## 2019年3月期 上期 業績 (2018年4月～9月)

(単位：億円)

	上期				
	修正後 2018年3月期	2019年3月期	対修正後 2018年3月期	為替影響	為替影響除く
売上高	11,879 100.0%	11,727 100.0%	-152 -1.3%	-41	-111 -0.9%
営業利益	723 6.1%	839 7.2%	116 +16.0%	-5	121 +16.7%
税金等調整前 四半期純利益	1,002 8.4%	988 8.4%	-14 -1.3%	-18	4 +0.4%
当社株主帰属 四半期純利益	709 6.0%	655 5.6%	-54 -7.6%	-12	-42 -5.9%
1株当たり 当社株主帰属 四半期純利益	161.92円	152.43円	-9.49円		
為替：米ドル	111円	110円	1円高		
：ユーロ	126円	130円	4円安		

&lt;その他増減要因 (対前年度)&gt; 営業利益における原材料価格影響：-14億円

※米国会計基準の変更に伴い、期間年金費用及び期間退職後給付費用の表示区分の変更を遡及適用しています。

3

次に、2019年3月期上期業績の詳細を説明します。

売上高は、低採算のローエンドプリンタービジネスを縮小させたことなどによりドキュメント事業が減収となるも、メディカルシステム事業、バイオCDMO事業、ディスプレイ材料事業、電子材料事業などで増収となり、前年同期比では横ばいの1兆1,727億円となりました。

営業利益は、各事業において収益性の改善を進めたことに加え、ドキュメント事業における構造改革の効果により、前年比16.0%増の839億円となりました。

税金等調整前四半期純利益は、昨年度、和光純薬工業の連結子会社化による和光株式の評価益を計上していた影響により、前年比1.3%減の988億円、

また、当社株主帰属四半期純利益は、前年比7.6%減の655億円となりました。

## セグメント別 連結売上高／営業利益

(単位：億円)

売上高	上期		対前年度	為替影響	為替影響除く
	2018年 3月期	2019年 3月期			
イメージング	1,748	1,759	11 (+0.6%)	-4	15 (+0.8%)
ヘルスケア	2,008	2,234	226 (+11.3%)	-10	236 (+11.8%)
ヘルスケア&マテリアルズ	4,808	4,990	182 (+3.8%)	-11	193 (+4.0%)
ドキュメント	5,323	4,978	-345 (-6.5%)	-26	-319 (-6.0%)
合計	11,879	11,727	-152 (-1.3%)	-41	-111 (-0.9%)

\*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

営業利益	上期		対前年度	為替影響	為替影響除く
	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期			
イメージング	238	216	-22 (-9.1%)	1	-23 (-9.8%)
ヘルスケア	12	24	12 (+90.5%)	-4	16 (+121.7%)
ヘルスケア&マテリアルズ	371	375	4 (+1.0%)	-7	11 (+2.9%)
ドキュメント	266	433	167 (+63.0%)	1	166 (+62.6%)
全社/連結調整	-152	-185	-33 -	0	-33 -
合計	723	839	116 (+16.0%)	-5	121 (+16.7%)

続いて、セグメント別の状況について説明します。

イメージング ソリューション部門の売上高は、

前年比0.6%増の1,759億円、

営業利益は、販促・宣伝費、研究開発費の先行投資などにより前年比9.1%減の216億円となりました。

ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション部門の売上高は、

前年比3.8%増の4,990億円、

営業利益は、医薬子会社の再編関連の費用を計上しましたが、増収による利益の伸長もあり、

前年比1.0%増の375億円となりました。

同部門のうち、ヘルスケアの売上高は

前年比11.3%増の2,234億円、

営業利益は、前年から12億円改善し、24億円となりました。

ドキュメント ソリューション部門の売上高は、

低採算ローエンドプリンタービジネスを縮小させたことや仕入れ品の売上計上方法を変更したことなどにより

前年比6.5%減の4,978億円、

営業利益は収益性の改善や構造改革効果により前年比63.0%増の433億円となりました。

## セグメント別 概況

## ■ イメージング ソリューション

売上高	対前年度	営業利益	対前年度
1,759	11 (+0.6%)	216	-22 (-9.1%)

(単位：億円)

- ・ フォトイメージングでは、インスタントカメラ“チェキ”とチェキフィルムのインスタントフォトシステムの販売が好調に推移。2018年5月に発売したインスタントカメラ「instax SQUARE SQ6」のスクエアフォーマットが、SNSに慣れ親しんだ若い世代に好評。
- ・ チェキの上期販売台数は350万台。
- ・ 電子映像では、9月に「FUJIFILM X-T3」を発売。高速・高精度AFや高い動画性能が評価され、販売が好調。各種交換レンズの販売が堅調に推移。
- ・ 光学デバイスでは、各種産業用レンズの販売が堅調に推移。世界最高46倍ズームの4Kレンズの発売を発表するなど、拡大する4K映像制作ニーズに対応する製品ラインアップを強化し、シェアの拡大を図る。

**売上は、各事業で販売が堅調に推移し増加  
営業利益は、販促・宣伝費や研究開発費の投入で減少**

5

イメージング ソリューション部門について説明します。

フォトイメージングでは、インスタントカメラ“チェキ”、チェキフィルムなどのインスタントフォトシステムの販売が好調に推移し、上期におけるチェキの販売台数は350万台となりました。2018年5月に発売したインスタントカメラ「instax SQUARE SQ6」は、スクエアフォーマットがSNSに慣れ親しんだ若い世代からの支持を集めています。また、instaxグローバルパートナーである「テイラースウィフト」さんを起用したグローバルプロモーションを展開し、売上拡大とinstaxブランドでのさらなる認知度向上を図っていきます。

電子映像では、9月に発売したXシリーズ第4世代となる新センサー・高速画像処理エンジンを搭載した「FUJIFILM X-T3」を発売。高速・高精度のオートフォーカスや、高い動画性能が評価され、売上の増加に貢献しました。各種交換レンズの販売も堅調に推移しており、需要増加に対応するため、生産設備の増設を決定しました。

光学デバイスでは、各種産業用レンズの販売が堅調に推移しました。放送用ポータブルレンズとして、世界最高46倍ズームの4Kレンズの発売を発表するなど、拡大する4K映像制作ニーズに対応する製品ラインアップを強化しています。

イメージング ソリューション部門は、各事業で販売が堅調に推移し、売上が増加しました。一層の拡販のための販促・宣伝費や次世代製品の研究開発費を投入し、営業利益は減少しました。

## セグメント別 概況

ヘルスケア&マテリアルズ  
ソリューション

売上高		対前年度		営業利益		対前年度	
4,990	182	(+3.8%)		375	4	(+1.0%)	

(単位:億円)

- ヘルスケアで、メディカルシステムはX線画像診断や内視鏡などを中心に販売が好調に推移。医薬品は、抗インフルエンザウイルス薬「アビガン錠」を国家備蓄として供給。新薬開発を加速させるため、2018年10月に富士フィルム富山化学を設立。バイオCDMOは、設備増強がバイオ医薬品の開発・製造受託増に寄与。
- 高機能材料で、ディスプレイ材料はタック製品の販売が堅調に推移したことに加え、タッチパネル分野、有機EL分野の製品販売が好調に推移。電子材料はフォトレジストやフォトリソ周辺材料の先端製品を中心に販売が好調に推移し、売上が増加。
- 記録メディアの売上は減少。今後、「BaFe磁性体」等独自技術を利用した磁気テープを拡販していく。グラフィックシステムは、製版・刷版材料の総需要減により売上は減少。インクジェット事業はインクおよび産業用インクジェットヘッドの販売が堅調に推移。

メディカルシステム事業、バイオCDMO事業、  
ディスプレイ材料事業、電子材料事業などが増収をけん引  
営業利益は、各事業の収益性改善により増加

続いて、ヘルスケア&マテリアルズソリューション部門です。

ヘルスケアのうち、メディカルシステムは、X線画像診断や内視鏡などを中心に販売が好調に推移しました。医薬品は、抗インフルエンザウイルス薬「アビガン錠」を国家備蓄として供給したことにより、売上が増加しました。さらに、新薬開発を加速させるため、富山化学工業を完全子会社化し、富士フィルムRIファーマと2018年10月に統合し、富士フィルム富山化学を設立しました。

バイオCDMOは、昨年より実施している設備増強が寄与し、バイオ医薬品のプロセス開発受託および製造受託が好調に推移しました。

再生医療は、2018年6月に連結子会社化したIrvine Scientific Sales Companyとアイエスジャパンが展開するバイオ医薬品向けの培地販売が好調に推移しました。

ライフサイエンスは、リニューアルした美容液「アスタリフト エッセンス デスティニー」や「メタバリア」シリーズを中心としたサブリメントなどの販売が好調に推移し、売上に貢献しました。

高機能材料のうち、ディスプレイ材料は、タック製品の販売が堅調だったことに加え、タッチパネル分野、有機EL分野での製品販売も好調に推移しました。

産業機材は、「エクスクリア」の販売好調に加え、工業用X線フィルムや圧力測定フィルム「プレスケール」の販売が堅調に推移しました。

電子材料は、フォトレジストやフォトリソ周辺材料の先端製品を中心に販売が好調に推移し、売上が増加しました。半導体市場が拡大する中、幅広い製品ラインアップで市場成長率を上回る高い成長を実現しています。

ファインケミカルの売上は前年並みも、研究機関向け試薬や高吸水性樹脂の原料となる重合開始剤等の化成品の販売が堅調に推移しました。

記録メディアの売上は減少しましたが、今後、「BaFe磁性体」等独自技術を利用した磁気テープを拡販していきます。

グラフィックシステムでは、製版・刷版材料の総需要減により売上は減少しました。刷版材料については、高い環境性能を持つ無処理版などの高付加価値製品の拡販を進めています。

インクジェットは、インクおよび産業用インクジェットヘッドの販売が堅調に推移しました。これまで注力してきた分野に加え、テキスタイルなど新たな領域へ独自の製品を展開し、事業を拡大していきます。

ヘルスケア&マテリアルズソリューション部門は、メディカルシステム事業やバイオCDMO事業、ディスプレイ材料、電子材料事業などで売上を伸ばしたことにより増収。営業利益は、各事業の収益性改善などにより増加しました。

## セグメント別 概況

## ■ ドキュメント ソリューション

		(単位: 億円)	
売上高	対前年度	営業利益	対前年度
4,978	-345 (-6.5%)	433	167 (+63.0%)

- ・ オフィスプロダクト分野では、全体の販売台数は減少したが、中国市場向けに開発した複合機の販売が堅調に推移。  
オフィスプリンター分野では、低採算のローエンドプリンタービジネスを縮小。
- ・ プロダクションサービスは、低中速機を中心に販売台数が減少したが、高速・高画質のカラー・オンデマンド・パブリッシング機の販売が欧米を中心に好調に推移。
- ・ ソリューション&サービスは、業種・業務別ソリューションの販売やBPO契約による売上が堅調に推移したが、仕入れ商品に対する売上の計上方法を変更した影響により、全体の売上は対前年で減少。

低採算のプリンタービジネスを縮小させたことなどにより減収となったが、中国での販売やソリューション&サービスビジネスは堅調に推移  
収益性の改善や構造改革の効果により大幅増益

最後に、ドキュメント ソリューション部門について説明します。

オフィスプロダクト&プリンターのオフィスプロダクト分野では、全体の販売台数は減少しましたが、中国市場向けに開発した複合機の販売が堅調に推移しました。オフィスプリンター分野では低採算のローエンドプリンタービジネスを縮小させました。

プロダクションサービスは、全体の販売台数は減少しましたが、カラー・オンデマンド・パブリッシング機「Iridesse™ Production Press」の販売が欧米を中心に好調に推移しました。2018年5月に印刷技術を活用したコミュニケーションの変革にお客様とともに取り組むオープンイノベーション拠点「Future Edge」を開設。印刷業務における生産性向上や働き方変革を実証することで、売上拡大を目指します。

ソリューション&サービスは、業種・業務別ソリューションの販売やBPO(Business Process Outsourcing)契約の売上が堅調に推移しましたが、仕入れ商品に対する売上の計上方法を変更した影響により、全体の売上は対前年で減少しました。新しい価値提供戦略「Smart Work Innovation」のもと、7月には独自のAI技術の活用により煩雑な手書き処理業務を効率化する「Smart Work Entry」の販売を開始するなど、お客様の業務効率化や生産性向上を支援するサービスを順次提供し、サービス領域でのさらなる成長を目指します。

ドキュメント ソリューション部門の売上高は、低採算のローエンドプリンタービジネスを縮小させたことなどにより減収となりました。営業利益は、収益性の改善や構造改革の効果などにより、大幅増益となりました。引き続き、ソリューション&サービス、プロダクションサービスなど成長領域の拡大に努めるとともに、構造改革を完遂し、収益性を高めていきます。

## 連結貸借対照表

(単位：億円)									
	17年 3月期末	18年 3月期末	19年3月期 9月末	対18年 3月期末		17年 3月期末	18年 3月期末	19年3月期 9月末	対18年 3月期末
現金 及び現金同等物	8,760	7,682	6,006	-1,676	長短社債 及び借入金	5,588	4,542	4,510	-32
受取債権	6,358	6,191	5,858	-333	支払債務	2,579	2,485	2,412	-73
棚卸資産	3,392	3,613	4,037	424	その他流動 固定負債	4,484	4,915	4,209	-706
その他流動資産	1,838	1,122	1,009	-113	負債計	12,651	11,942	11,131	-811
流動資産計	20,348	18,608	16,910	-1,698	株主資本計	20,436	20,791	20,842	51
有形固定資産	5,206	5,375	5,307	-68	非支配持分	2,245	2,196	2,019	-177
営業権	4,998	5,916	6,627	711	純資産計	22,681	22,987	22,861	-126
投資有価証券 その他資産	4,780	5,030	5,148	118	負債・純資産 合計	35,332	34,929	33,992	-937
固定資産計	14,984	16,321	17,082	761	(単位：円)				
資産合計	35,332	34,929	33,992	-937	期末日 為替レート	17年 3月期末	18年 3月期末	19年3月期 9月末	対18年 3月期末
					米ドル	112	106	114	8円安
					ユーロ	120	131	132	1円安

次に、バランスシートについて説明します。

2019年3月期9月末時点の資産合計は、

現金及び現金同等物の減少などにより、2018年3月期末時点と比べ、937億円減の3兆3,992億円となりました。

負債は811億円減の1兆1,131億円、株主資本は51億円増の2兆842億円となりました。

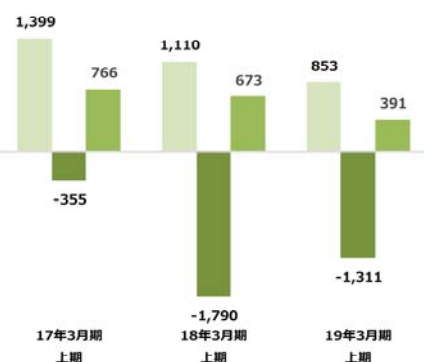
流動比率は、1.0ポイント増の281.1%、負債比率は4.0ポイント減の53.4%、株主資本比率は1.8ポイント増の61.3%となりました。



## キャッシュ・フロー

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー  
■ 投資活動によるキャッシュ・フロー  
■ フリー・キャッシュ・フロー（事業買収等除く）

(単位：億円)



	(単位：億円)		
	17年3月期 上期	18年3月期 上期	19年3月期 上期
四半期純利益	416	775	742
減価償却費	590	616	632
受取債権の増(-)減(+)	502	456	387
棚卸資産の増(-)減(+)	-92	-278	-352
営業債務の増(+)-減(-)	-75	-285	-81
その他	58	-174	-475
営業活動によるC F	1,399	1,110	853
設備投資	-393	-306	-298
ソフトウェアの購入	-106	-96	-101
有価証券・投資有価証券等の 売却・購入	291	-96	-6
事業買収	-13	-1,257	-843
その他	-134	-35	-63
投資活動によるC F	-355	-1,790	-1,311
フリー・キャッシュ・フロー	1,044	-680	-458
事業買収等を除くフリー・キャッシュ・フロー※	766	673	391

※フリー・キャッシュ・フローから、事業買収および有価証券・投資有価証券等の売却・購入を控除しています。

9

続いて、キャッシュ・フローについて説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、受取債権の減少などにより、853億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、Irvine Scientific Sales Companyとアイエスジャパンの買収などにより、1,311億円の支出となりました。

この結果、事業買収等を除くフリー・キャッシュ・フローは、391億円の収入となりました。

2019年3月期 第2四半期 決算説明会

## 富士ゼロックスにおける構造改革

次に、当社子会社の富士ゼロックスにおける構造改革について説明します。

## 富士ゼロックスにおける構造改革

構造改革は順調に進捗、上期で85億円の効果を実現  
新たな成長領域において事業基盤を確立

	2018年3月期 実績	2019年3月期 計画	2020年3月期 計画
構造改革費用等一時費用	700億円(通期)	250億円	60億円
効果(対2017年3月期)	-	270億円	550億円

2019年3月期	1Q実績	2Q実績	上期実績	通期計画
構造改革費用等 一時費用	33億円	18億円	51億円	250億円
効果 (対2017年3月期)	10億円	75億円	85億円	270億円

11

本年1月31日に発表しました富士ゼロックスにおける構造改革について、進捗をご報告いたします。

2019年3月期上期の構造改革費用等一時費用は51億円となりました。  
また、構造改革の効果は85億円となりました。

本構造改革を確実に実行することで、コスト削減を実現し、市場の変化・競争に耐える収益性・生産性を確保しつつ、新たな成長領域へ再投資し、持続的な成長を実現できる事業基盤を確立します。

以上、2019年3月期上期決算についてご説明いたしました。

2019年3月期 第2四半期 決算説明会

## 通期業績予想

2019年3月期の連結業績予想について説明します。

## 2019年3月期 連結業績予想 (2018年11月7日時点)

(単位：億円)						
	修正後 2018年3月期	2019年3月期 (前回予想)	2019年3月期	対前回予想	対前年度	
売上高	24,334 100%	25,100 100%	24,700 100%	-400 -1.6%	366 +1.5%	
一時費用除く 営業利益	1,933	2,250	2,250	0	317	
構造改革費用等 一時費用	-700	-250	-250	0	450	
営業利益	1,233 5.1%	2,000 8.0%	2,000 8.1%	0 0.0%	767 +62.2%	
税金等調整前 当期純利益	1,978 8.1%	2,050 8.2%	2,050 8.3%	0 0.0%	72 +3.6%	対前回予想 為替影響
当社株主帰属 当期純利益	1,407 5.8%	1,300 5.2%	1,300 5.3%	0 0.0%	-107 -7.6%	売上高 -150 営業利益 -40
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	322.62円	302.16円	305.31円	3.15円	-17.31円	
ROE	6.8%	6.2%	6.2%	0.0%	-0.6%	* 2019年3月期 営業利益為替感応度
為替 : 米ドル	111円	110円	110円	-	1円高	米ドル : 8億円
: ユーロ	130円	130円	130円	-	-	ユーロ : 8億円
銀価格 (/kg)	61,000円	62,000円	59,000円	-3,000円	-2,000円	

13

売上高は、ドキュメントソリューションの体質強化策の一つである低採算ビジネスの縮小に徹底して取り組むことにより、前回予想から400億円下方修正し、2兆4,700億円とします。なお、前年比1.5%の増収は確保致します。

一方で、各事業における収益性の改善やドキュメントソリューションにおける構造改革は順調に進捗しています。新興国通貨安のマイナス影響はありますが、営業利益は前回予想から変更せず前年比62.2%増の2,000億円に据え置きます。

また、税金等調整前当期純利益と当社株主帰属当期純利益は、前回予想から変更しておりません。

通期業績予想達成に向けて、引き続き成長戦略を推進するとともに、さらなる拡販と収益性の改善を強力に進めていきます。

尚、本年8月より開始した1,000億円の自己株式取得は計画通り進捗しています。

2019年3月期の配当金は、対前年5円増配の80円を予定しております。

事業活動による利益目標の達成に加え、株主還元を強化してまいります。

以上、2019年3月期通期業績予想についてご説明いたしました。

## グローバルブランディングキャンペーン「NEVER STOP」



当社の多岐にわたる事業領域や挑戦し続ける企業姿勢を広く伝えるため、  
グローバルブランディングキャンペーン「NEVER STOP」を  
日本と米国で10月より開始。今後、欧州、中国、東南アジアでも、展開予定。

14

最後に、10月より開始したグローバルブランディングキャンペーン「NEVER STOP」をご紹介します。

これまでの歴史において、当社は写真フィルム業界で世界のトップを走っていた米国コダック社に対して「NEVER STOP」で挑み続け、技術的に凌駕することで世界市場でのプレゼンスを高めました。

さらに、2000年以降は、写真フィルムの急激な需要減少という本業消失の危機に果敢に立ち向かい、第二の創業を掲げて「NEVER STOP」で経営改革を断行してきました。

そして、現在では先進独自の技術で新たな価値を提供し、さまざまな社会課題の解決に貢献するとともに、常に成長するために絶えず向上・前進し続けています。

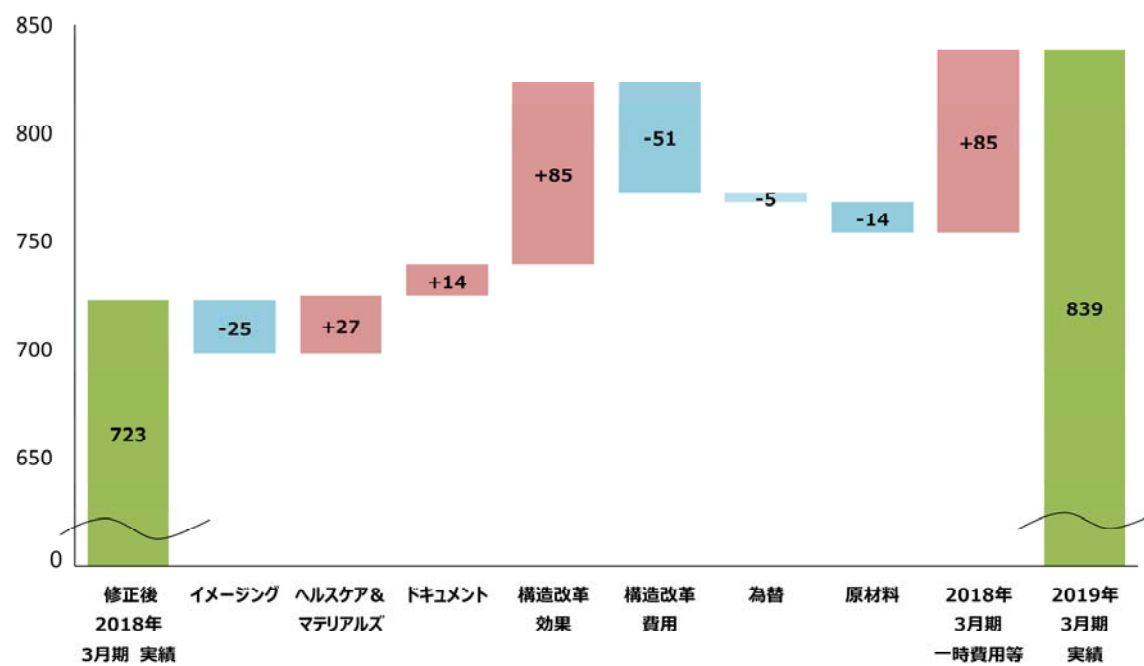
今回のキャンペーンを通じて、当社の多岐にわたる事業領域や挑戦し続ける強い意思と姿勢を世界に広く伝え、グローバルでのさらなる成長を目指します。

それでは、コンセプトムービーをご覧ください。

2019年3月期 第2四半期 決算説明会

**参考資料**

## 営業利益増減分析(対前年上期実績)



<当スライドは配付資料です>



## 2Q/上期 業績

(単位：億円)

	2Q			上期		
	修正後 2018年3月期	2019年3月期	対修正後 2018年3月期	修正後 2018年3月期	2019年3月期	対修正後 2018年3月期
売上高	6,164 100.0%	6,078 100.0%	-86 -1.4%	11,879 100.0%	11,727 100.0%	-152 -1.3%
営業利益	382 6.2%	470 7.7%	88 +23.0%	723 6.1%	839 7.2%	116 +16.0%
税金等調整前 四半期純利益	426 6.9%	530 8.7%	104 +24.7%	1,002 8.4%	988 8.4%	-14 -1.3%
当社株主帰属 四半期純利益	271 4.4%	372 6.1%	101 +37.2%	709 6.0%	655 5.6%	-54 -7.6%
為替 : 米ドル	111円	111円	-	111円	110円	1円高
: ユーロ	130円	130円	-	126円	130円	4円安

<その他増減要因 (2Q/上期 対前年度) > 営業利益 原材料 : -7億円 / -14億円

17

<当スライドは配付資料です>

## 2Q/上期 業績

(単位:億円)

売上高	2Q			上期		
	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度
イメージング	898	880	-18 (-2.1%)	1,748	1,759	11 (+0.6%)
ヘルスケア	1,095	1,216	121 (+11.2%)	2,008	2,234	226 (+11.3%)
ヘルスケア&マテリアルズ	2,508	2,631	123 (+4.9%)	4,808	4,990	182 (+3.8%)
ドキュメント	2,758	2,567	-191 (-6.9%)	5,323	4,978	-345 (-6.5%)
合計	6,164	6,078	-86 (-1.4%)	11,879	11,727	-152 (-1.3%)

\*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2Q			上期		
	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度
イメージング	113 [12.5%]	94 [10.7%]	-19 (-16.8%)	238 [13.5%]	216 [12.2%]	-22 (-9.1%)
ヘルスケア	24 [2.2%]	16 [1.3%]	-8 (-33.3%)	12 [0.6%]	24 [1.1%]	12 (+90.5%)
ヘルスケア&マテリアルズ	186 [7.4%]	194 [7.4%]	8 (+4.2%)	371 [7.7%]	375 [7.5%]	4 (+1.0%)
ドキュメント	162 [5.8%]	284 [11.0%]	122 (+75.5%)	266 [5.0%]	433 [8.6%]	167 (+63.0%)
全社/連結調整	-79	-102	-23	-152	-185	-33
合計	382 [6.2%]	470 [7.7%]	88 (+23.0%)	723 [6.1%]	839 [7.2%]	116 (+16.0%)

18

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## 2Q(3ヶ月) セグメント別 ハイライト

### イメージング ソリューション

- ・ フォトイメージングでは、インスタントカメラ「チエキ」とチエキフィルムのインスタントフォトシステムの販売が好調に推移。
- ・ 電子映像では、9月に「FUJIFILM X-T3」の販売を開始。高速・高精度AFや、高い動画性能が評価され、販売が好調。

### ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション

- ・ ヘルスケアで、メディカルシステムは、X線画像診断や超音波を中心に販売が好調に推移。医薬品では、抗インフルエンザウイルス薬「アビガン錠」を国家備蓄として供給。バイオCDMOでは、バイオ医薬品のプロセス開発・製造受託が好調に推移。再生医療では、名古屋市立大学との共同研究によりヒトiPS細胞由来腸管上皮細胞の開発に成功。
- ・ 高機能材料で、ディスプレイ材料は、タック製品に加えタッチパネル関連、有機EL関連などの新規分野で販売が伸長。産業機材は、「エクスクリア」の販売が好調。電子材料は先端フォトリソ周辺材料の販売が好調に推移し、売上が増加。

### ドキュメント ソリューション

- ・ 売上高は、中国での販売やソリューション&サービス事業が堅調に推移したものの、低採算のプリンタービジネスを縮小させたことや仕入れ商品に対する売上の計上方法の変更などにより減収。新たな価値提供戦略「Smart work Innovation」のもと、独自のAI技術を活用し、業務効率化や生産性向上を支援するサービスを順次提供。
- ・ 営業利益は、構造改革の効果などにより大幅増益。

<当スライドは配付資料です>

## 2Q/上期 業績

## ■ イメージング ソリューション

(単位：億円)

売上高	2Q				上期			
	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く
フォトイメージング	586	571	-15 (-2.6%)	-9 (-1.6%)	1,124	1,129	5 (+0.4%)	9 (+0.8%)
電子映像	214	213	-1 (-0.3%)	2 (+1.3%)	437	441	4 (+1.0%)	4 (+1.1%)
光学デバイス	98	96	-2 (-3.0%)	-1 (-2.6%)	187	189	2 (+0.8%)	2 (+0.7%)
光学・電子映像	312	309	-3 (-1.1%)	1 (+0.1%)	624	630	6 (+0.9%)	6 (+1.0%)
合計	898	880	-18 (-2.1%)	-8 (-1.0%)	1,748	1,759	11 (+0.6%)	15 (+0.8%)

\*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

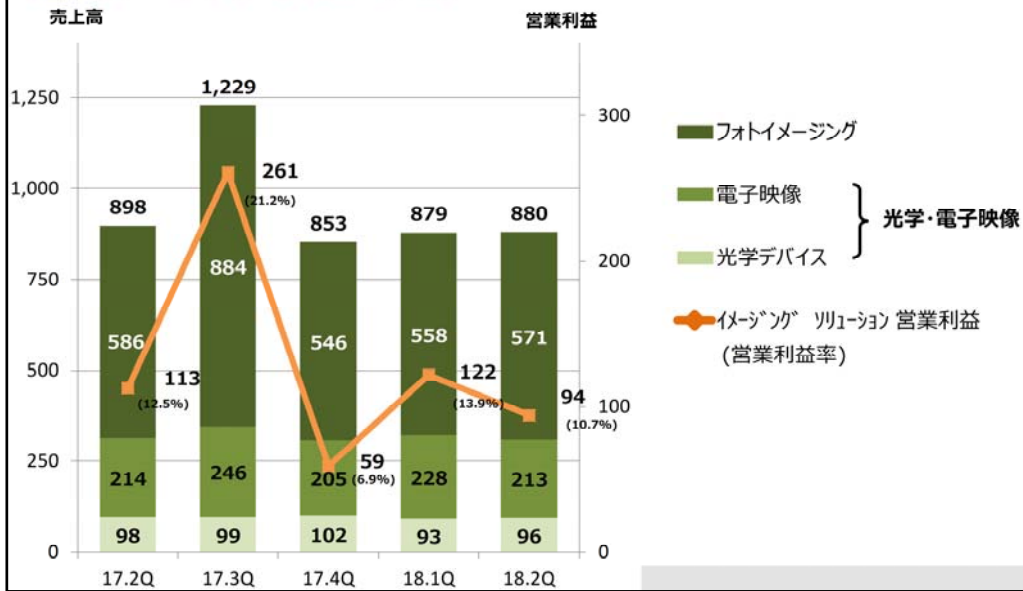
営業利益 [営業利益率]	2Q				上期			
	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く
イメージング	113 [12.5%]	94 [10.7%]	-19 (-16.8%)	-12 (-10.6%)	238 [13.5%]	216 [12.2%]	-22 (-9.1%)	-23 (-9.8%)

20

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

### ■ イメージング ソリューション (単位: 億円)



<当スライドは配付資料です>

## 2Q/上期 業績

## ■ ヘルスケア&amp;マテリアルズ ソリューション

(単位:億円)

売上高	2Q				上期			
	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く
ヘルスケア	1,095	1,216	121 (+11.2%)	131 (+12.1%)	2,008	2,234	226 (+11.3%)	236 (+11.8%)
ディスプレイ材料	227	277	50 (+22.3%)	50 (+22.3%)	470	507	37 (+7.9%)	37 (+7.9%)
産業機械/電子材料 ファインケミカル	429	441	12 (+2.9%)	9 (+2.2%)	850	877	27 (+3.1%)	26 (+3.1%)
高機能材料	656	718	62 (+9.6%)	59 (+9.2%)	1,320	1,384	64 (+4.8%)	63 (+4.8%)
記録メディア	105	87	-18 (-17.7%)	-18 (-17.6%)	221	180	-41 (-18.5%)	-40 (-18.0%)
グラフィックシステム/インクジェット	650	607	-43 (-6.8%)	-39 (-6.2%)	1,256	1,186	-70 (-5.6%)	-69 (-5.5%)
その他	2	3	1	1	3	6	3	3
合計	2,508	2,631	123 (+4.9%)	134 (+5.4%)	4,808	4,990	182 (+3.8%)	193 (+4.0%)

\*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

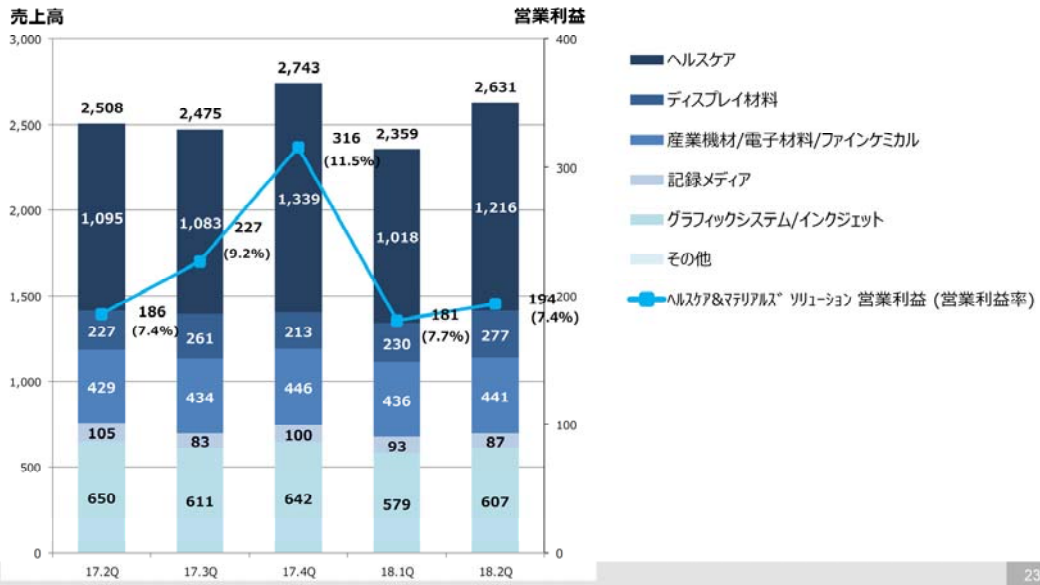
営業利益 [営業利益率]	2Q				上期			
	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く
ヘルスケア	24 [2.2%]	16 [1.3%]	-8 (-33.3%)	-1 (-4.2%)	12 [0.6%]	24 [1.1%]	12 (+90.5%)	16 (+121.7%)
ヘルスケア&マテリアルズ	186 [7.4%]	194 [7.4%]	8 (+4.2%)	16 (+8.6%)	371 [7.7%]	375 [7.5%]	4 (+1.0%)	11 (+2.9%)

22

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

### ■ ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション (単位：億円)



<当スライドは配付資料です>

## 2Q/上期 業績

## ■ ドキュメント ソリューション

(単位：億円)

売上高	2Q				上期			
	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く
オフィスプリンター	389	326	-63 (-16.0%)	-60 (-15.3%)	777	627	-150 (-19.3%)	-144 (-18.5%)
オフィスプロダクト&プリンター	1,583	1,466	-117 (-7.4%)	-107 (-6.8%)	3,104	2,863	-241 (-7.8%)	-228 (-7.3%)
プロダクションサービス	352	324	-28 (-7.7%)	-26 (-6.9%)	672	616	-56 (-8.3%)	-54 (-7.9%)
ソリューション&サービス	689	664	-25 (-3.5%)	-18 (-2.6%)	1,285	1,243	-42 (-3.2%)	-33 (-2.5%)
その他	134	113	-21	-19	262	256	-6	-4
合計	2,758	2,567	-191 (-6.9%)	-170 (-6.2%)	5,323	4,978	-345 (-6.5%)	-319 (-6.0%)

\* セグメント間取引消去後

(単位：億円)

営業利益 [営業利益率]	2Q				上期			
	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く
ドキュメント	162 [5.8%]	284 [11.0%]	122 (+75.5%)	132 (+81.7%)	266 [5.0%]	433 [8.6%]	167 (+63.0%)	166 (+62.6%)

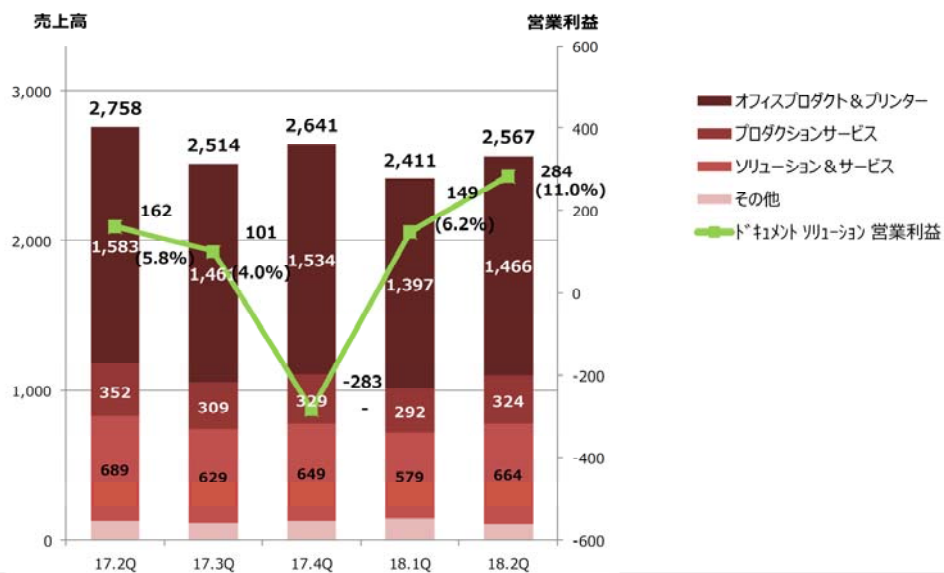
24

&lt;当スライドは配付資料です&gt;



## セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

### ドキュメントソリューション (単位: 億円)



<当スライドは配付資料です>

## 国内・海外別連結売上高

(単位：億円)

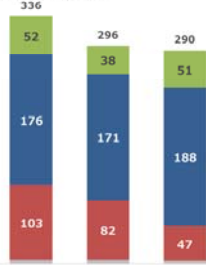
	2018年3月期 上期		2019年3月期 上期		対前年度	
	構成比(%)		構成比(%)			
日本	41.2%	4,895	41.0%	4,808	-87	(-1.8%)
米州	19.4%	2,300	18.8%	2,200	-100	(-4.3%)
欧州	12.1%	1,444	12.8%	1,504	60	(+4.1%)
内、中国	12.2%	1,450	12.7%	1,494	44	(+3.1%)
アジア他	27.3%	3,240	27.4%	3,215	-25	(-0.8%)
海外	58.8%	6,984	59.0%	6,919	-65	(-0.9%)
合計	100.0%	11,879	100.0%	11,727	-152	(-1.3%)

26

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## 設備投資、減価償却費

設備投資（上期）



(単位：億円)

年度	2Q			上期			通期		
	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期(予想)
イメージング	31	21	21	52	38	51	103	94	
ヘルスケア&マテリアルズ	80	96	115	176	171	188	401	427	
ドキュメント	60	39	27	103	82	47	200	138	
コーポレート	4	3	3	5	5	4	14	16	
設備投資 ※	175	159	166	336	296	290	718	675	800
イメージング	29	32	36	58	65	70	111	133	
ヘルスケア&マテリアルズ	121	142	154	247	282	297	491	575	
ドキュメント	130	128	125	275	256	255	553	547	
コーポレート	5	7	4	10	13	10	21	21	
減価償却費	285	309	319	590	616	632	1,176	1,276	1,190
有形固定資産の減価償却費 ※	147	166	167	289	328	334	589	665	

※ ドキュメントソリューション部門等のレンタル資産を除く。

- イメージング ソリューション
- ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション
- ドキュメント ソリューション
- コーポレート

<当スライドは配付資料です>

## 研究開発費、販売費及び一般管理費

研究開発費（上期）

（単位：億円）

年度	2Q		上期		通期	
	2018年 3月期	2019年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期 (予想)
イメージング	24	24	41	49	90	
ヘルスケア&マテリアルズ	185	172	344	350	700	
ドキュメント	144	134	285	272	635	
コーポレート	63	64	122	124	254	
研究開発費	416	394	792	795	1,679	1,610
<売上高比>	6.7%	6.5%	6.7%	6.8%	6.9%	6.5%
販売費及び 一般管理費	1,624	1,648	3,215	3,235	6,778	
<売上高比>	26.4%	27.1%	27.0%	27.5%	27.9%	

■ イメージング ソリューション  
■ ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション  
■ ドキュメント ソリューション  
■ コーポレート

28

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## 為替、原材料価格、人員

## 為替

(単位：円)

	2018年3月期					2019年3月期				
	1Q	2Q	上期	下期	通期	1Q	2Q	上期	下期(予想)	通期(予想)
米ドル	111	111	111	111	111	109	111	110	110	110
ユーロ	122	130	126	133	130	130	130	130	130	130

## 原材料価格 (平均)

(単位：千円/kg)

	2018年3月期					2019年3月期				
	1Q	2Q	上期	下期	通期	1Q	2Q	上期	下期(予想)	通期(予想)
銀	63	60	62	60	61	58	54	57	62	59

## 人員

(単位：人)

	2017.9末	2017.12末	2018.3末	2018.6末	2018.9末
連結	80,315	80,067	77,739	77,060	75,329

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## 会計基準変更に伴う2018年3月期営業利益の修正

(単位：億円)

営業利益	修正前 2018年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
イメージング	126	113	261	60	560
ヘルスケア	-8	27	55	133	207
ヘルスケア&マテリアルズ	189	191	232	316	928
ドキュメント	117	174	114	-265	140
全社/連結調整	-74	-77	-80	-90	-321
合計	358	401	527	21	1,307

(単位：億円)

営業利益	修正後 2018年3月期									
	1Q	差異	2Q	差異	3Q	差異	4Q	差異	通期	差異
イメージング	125	-1	113	0	261	0	59	-1	558	-2
ヘルスケア	-12	-4	24	-3	52	-3	133	0	197	-10
ヘルスケア&マテリアルズ	185	-4	186	-5	227	-5	316	0	914	-14
ドキュメント	104	-13	162	-12	101	-13	-283	-18	84	-56
全社/連結調整	-73	1	-79	-2	-80	0	-91	-1	-323	-2
合計	341	-17	382	-19	509	-18	1	-20	1,233	-74

30

<当スライドは配付資料です>

## 2019年3月期 セグメント別業績予想 (2018年11月7日時点)

(単位: 億円)

売上高	2018年 3月期	2019年 3月期 (前回予想)	2019年 3月期	対 前回予想	内	対前年度
					為替影響	
イメージング	3,830	4,000	4,000	0	-30	170 (+4.4%)
ヘルスケア	4,430	4,750	4,850	100	-30	420 (+9.5%)
マテリアルズ	5,596	5,850	5,750	-100	-20	154 (+2.8%)
ヘルスケア&マテリアルズ	10,026	10,600	10,600	0	-50	574 (+5.7%)
ドキュメント	10,478	10,500	10,100	-400	-70	-378 (-3.6%)
合計	24,334	25,100	24,700	-400	-150	366 (+1.5%)

\*セグメント間取引消去後

営業利益	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期 (前回予想)	2019年 3月期	対 前回予想	内	対前年度
					為替影響	
イメージング	558	600	600	0	-10	42 (+7.5%)
ヘルスケア	197	210	230	20	-15	33 (+16.8%)
マテリアルズ	717	700	700	0	-5	-17 (-2.4%)
ヘルスケア&マテリアルズ	914	910	930	20	-20	16 (+1.8%)
一時費用除く営業利益	784	1,070	1,070	0	-10	286 (+36.5%)
構造改革費用等一時費用	-700	-250	-250	0	0	450 -
ドキュメント	84	820	820	0	-10	736 (9.8倍)
全社/連結調整	-323	-330	-350	-20	0	-27
合計	1,233	2,000	2,000	0	-40	767 (+62.2%)

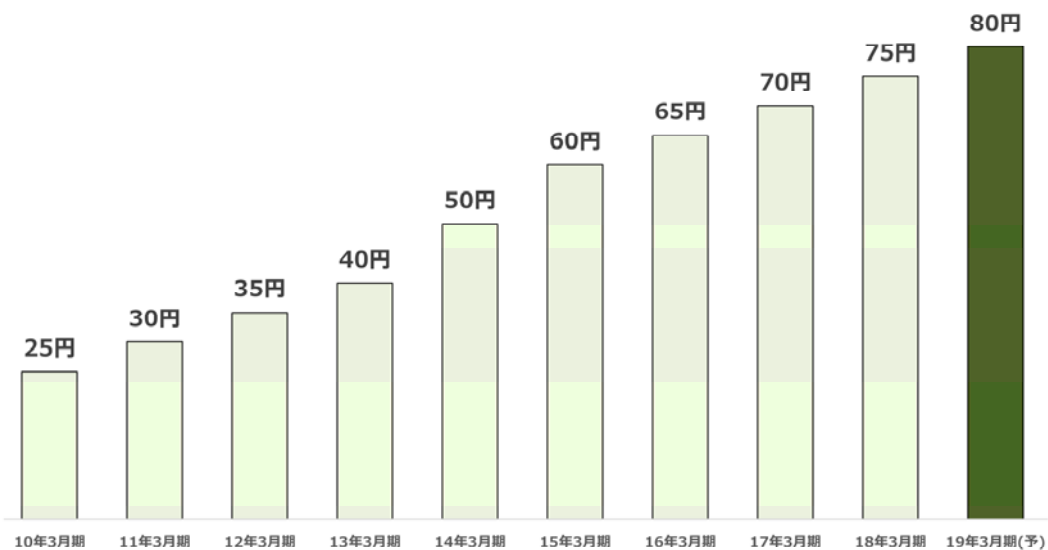
31

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## 株主還元

### ■ 配当金

2019年3月期の配当金は、9期連続増配となる対前年5円増配の80円/株を予定



<当スライドは配付資料です>



## パイプライン (2018年11月7日時点)

開発番号	薬効・適応症	剤形	地域	開発段階
T-705	抗インフルエンザウイルス薬	経口	日本	承認済み
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) 治療薬		米国	Ph III
T-3811	キノン系合成抗菌薬	経口	日本	Ph III
T-2307	抗真菌薬	注射	中国	承認申請中
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療薬	経口	米国	Ph I
			日本	Ph II
T-4288	新規フルオロケトライド系抗菌薬	経口	日本	Ph III
FF-10501	骨髄異形成症候群治療薬	経口	日本	Ph I
			米国	Ph II
FF-10502	進行・再発固形がん治療薬	注射	米国	Ph II
FF-21101	進行・再発固形がん治療薬 (Armed抗体)	注射	米国	Ph I
F-1311	前立腺がん診断薬 (放射性医薬品)	注射	日本	Ph II
FF-10101	急性骨髄性白血病治療薬	経口	米国	Ph I
F-1515	神経内分泌腫瘍治療薬 (放射性医薬品)	注射	日本	Ph I
FF-10832	進行性固形がん治療薬 (ゲムシタピリボソーム)	注射	米国	Ph I
F-1614	難治性褐色細胞腫治療薬 (放射性医薬品)	注射	日本	Ph II

※持分法適用会社の協和キリン富士フイルムバイオロジクス (FKB) のFKB327 (アタリムマブバイオシミラー) は、2018/9欧州での承認を取得。  
FKBとアストラゼネカ社の JV のFKB238 (ベバシマブバイオシミラー) は、米国、欧州、その他でPh III実施中。  
※「ITK-1 (去勢抵抗性前立腺がん治療薬)」は、開発を中止致しました。

33

<当スライドは配付資料です>

## 参考情報

### 富士フィルムホールディングス 株主・投資家情報

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/index.html>

### 富士フィルムホールディングス 統合報告書2018

[http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir\\_library/integrated\\_reports/index.html](http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_library/integrated_reports/index.html)

### IRイベント資料

[http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir\\_events/business\\_presentations/index.html](http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_events/business_presentations/index.html)

#### ・事業説明会資料

- 2016年 12月 医薬品・再生医療事業説明会
- 2017年 3月 エレクトロニクスマテリアルズ (EM) 事業説明会
- 2018年 3月 イメージングソリューション事業説明会

### 富士フィルムってどんな会社？

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/individual/guidance/index.html>

### グローバルブランディングキャンペーン「NEVER STOP」

<https://brand.fujifilm.com/neverstop/jp>

<当スライドは配付資料です>

# FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拓けるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社

経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>